

学生書道展で日本テレビ賞を受賞 平泉小学校6年の朝田心さん

第67回全日本学生書道展で、平泉小学校6年の朝田心さんが上位入賞となる日本テレビ賞を受賞しました。同書道展には全国から約3,500点の応募があり、朝田さんは今回初めて設けられた一字書部門に出品しました。

3月1日には、青木町長のもとを訪れ受賞を報告。朝田さんは「こんなに大きな賞がもらえるとは思わなかった。中学生になっても書道を続けて、もっとすごい字が書けるように頑張りたいです」と笑顔で今後の抱負を語っていました。



特別審査優秀賞を受賞 松栄堂の菓子「平泉 黄金餅」

株式会社松栄堂が販売する菓子「平泉 黄金餅」が第58回全国推奨観光土産品審査会特別審査優秀賞を受賞しました。「平泉黄金餅」は道の駅平泉の開業に合わせ、原材料にもち米を使った平泉をPRする菓子として町と共同で製品化した菓子です。

2月23日には、同社の小野寺宏真代表取締役社長らが町役場を訪れ青木町長へ受賞を報告。小野寺社長は「ゆくゆくは町内産のもち米を使うことで、より地域に密着した商品にしていきたい」と話していました。



優良公民館文部科学大臣表彰を受賞 平泉町公民館

歴史と文化の豊かさを生かしながら、町民が生涯にわたって自主的・自発的に学習活動を継続していけることを目指して、各種講座や教室の開設に取り組んでいることが評価され、平泉町公民館が第70回優良公民館文部科学大臣表彰に選ばれました。

3月12日には、菅原英明館長らが教育長のもとを訪れ受賞を報告。菅原館長は、「長年、町民のみなさんと取り組んできた成果が評価された受賞であり、今後も魅力ある生涯学習の場を皆さんと作り上げていきたい」と話していました。



住み慣れた地域で暮らしていく 在宅医療・介護連携町民フォーラム

「在宅医療・介護連携町民フォーラム」が2月24日、平泉ホテル武蔵坊で開催され、町民ら約150人が参加しました。フォーラムは13区お茶っこの会による認知症理解をテーマにした寸劇で開会。参加者は、特定医療法人博愛会一関病院理事長兼病院長の佐藤隆次さんの基調講演や、介護関係者を発言者に迎えたパネルディスカッションを通じて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために必要なことについて考えていました。



思い出を胸に園舎を巣立つ 幼稚園・保育所で卒園式・修了式

町立幼稚園と平泉保育所の卒園式・修了式が3月13日に、長島保育所の修了式が3月24日に行われました。

園児一人一人に卒園証書、修了証書が手渡されると「ありがとうございます」と大きな声で答え、証書を受け取っていました。

お別れの言葉の呼びかけでは、全員が壇上に上がり、これまでの幼稚園・保育所生活での思い出を振り返りました。涙を浮かべる子どもの姿もあり、式は子どもたちの成長と、卒園・修了の喜びに包まれていました。



特産品を使った料理が勢ぞろい 平泉農産企画女子プロジェクト

2月24日、平泉農産企画女子プロジェクトによる試作品試食会が「とりまし dining 志羅山」で開かれました。同プロジェクトは女性農業者などが日々の生活で培った知恵をもとに、新たな商品やサービスを創造することなどを目的としています。当日は、町内産の和がらしなどの特産品を使ってメンバーが考案した料理18種類が用意され、素材の良さを生かすための分量や調理法などについて検討。今回考案された料理は今後改良していく、新商品として道の駅平泉などへの出荷を目指すそうです。



庭園の魅力への理解を深める 世界遺産平泉シンポジウム

3月18日、世界遺産平泉シンポジウム「庭園の美学」(世界遺産連携推進実行委員会主催)が平泉文化遺産センターで開催されました。庭園文化に造詣の深い作庭家の重森千青さん、文化庁記念物課文化財調査官の平澤毅さん、平泉文化遺産センターの千葉信胤館長の3人をパネリストに迎え、フリーアナウンサーの千葉絢子さんの進行で平泉の浄土庭園などについて意見を交わし、参加者は庭園の魅力や価値への理解を深めていました。



子どもたちへ図書カードを寄贈 中尊寺寒行者

2月28日、中尊寺寒行者が、今年の小寒から節分までの約1カ月間行った寒行で町民から寄せられた浄財で購入した図書カードを町に寄贈しました。

青木町長のもとを訪ねた中尊寺の佐々木亮王さんは「子どもたちの知識や感性を育てるために役立ててください」と話し、図書カード70万円分を青木町長に手渡しました。

寄贈された図書カードは町内小中学校と幼稚園、保育所のほか、町立図書館に届けられ、有効活用されます。

